資 料１

日本学術会議第１６６回総会資料

（第２２期　第６回）

平成26年　4月10日（木）
4月11日（金）
4月12日（土）

日 本 学 術 会 議

一 般 的 注 意 事 項

１　出席のサインについて

総会に出席される方は、受付で出席のサインをお願いします。

２　旅費の支給について

旅費請求書を配付いたしますので、押印してください。

３　発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

４　委員会開催の周知について

休憩時等に委員会を開催する場合は、エレベーターわきの電光掲示板にてお知らせいたします。

５　その他

配付資料については、お持ち帰りいただきますようお願いいたします。

なお、不要な資料は席上にお残しください。

第１６６回総会日程

－ 第２２期第６回 －

第１　日程表

10:00		12:00	13:30	15:00	16:30	17:30
４月１０日（木）	総会 ・会長活動報告 ・各副会長活動報告 ・審議経過報告 ①科学研究における健全性の向上について	昼休み	総会 ・外部評価書報告 ・吉川弘之栄誉会員による特別講演	部会	分野別委員長・幹事会合同会議	幹事会

10:00		12:00	13:30	16:00	16:30 メド
４月１１日（金）	部会	昼休み	総会 ・審議経過報告 ②科学研究における健全性の向上に関する検討委員会臨床試験制度検討分科会 ③科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 ④基礎医学委員会病原体研究に関するデュアルユース問題分科会 ・各部活動報告 ・自由討議	同友会総会	日本学術会議・同友会共催懇親会

10:00	
４月１２日（土）	各種委員会等

（上記の日程は、変更される場合があります。）

第２　会場

総　会・・・・・・講　　堂

その他委員会等・・・・・・当日掲示板等で通知

報	1
総　会	１６６

日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

平成２６年４月１０日

前回（第１６５回）総会以降の活動状況報告

第１　会長等出席行事

月　　日	行　事　等	対　応　者
10 月 6 日（日） ～　7 日（月）	STS forum 2013（京都）	大西会長、春日副会長
10 月 9 日(水) ～　10 日(木)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2013	大西会長、家副会長、春日副会長
10 月 9 日(水)	英国主席科学顧問等との政策対話会合(英国大使館)	大西会長
10 月 9 日(水)	英国主席科学顧問等とのレセプション	春日副会長
10 月 15 日（火）	日本学士院秋季懇親会	大西会長、家副会長、小林副会長、春日副会長
10 月 17 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
10 月 22 日（火）	OECD Global Science Forum［ Keynote speeches ］(政策研究大学院大学)	大西会長
10 月 22 日（火）	公開シンポジウムー 学協会の新公益法人法への対応の現状と展望 ー　※開会挨拶	小林副会長
10 月 24 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
10 月 24 日（木）	会長・三副会長・各部役員ＣＳＴＰ懇談会	大西会長、家副会長、小林副会長、春日副会長
10 月 29 日（火） ～11 月 2 日(土)	IAP 執行委員会 （オーストラリア　キャンベラ）	大西会長、春日副会長
11 月 7 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長

11 月 9 日（土）	サイエンスアゴラ 2013「若者に発信する日本学術会議：〈知の航海〉シリーズから」　※開会挨拶	家副会長
11 月 12 日（火）	第 13 回福島県「県民健康管理調査」検討委員会（福島県）	春日副会長
11 月 13 日（水） ～16 日（土）	Future Earth bidders conference （フランス　パリ）	春日副会長
11 月 14 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
11 月 18 日（月）	九州・沖縄地区会議学術講演会「かごしまの『水』を考える－鹿児島大学水研究最前線－」（鹿児島大学）　※開会挨拶	家副会長
11 月 20 日（水）	中部地区会議学術講演会「大学からの知の発信～文理融合の視点から～」（名古屋大学）　※講演	家副会長
11 月 21 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
11 月 23 日（土） ～29 日（金）	World Science Forum 2013（ブラジル　リオデジャネイロ） ※大西会長は別用務の為、25 日まで出席	大西会長、春日副会長
11 月 26 日（火） ～28 日（木）	UNISDR　国連国際防災戦略会議（スイス　ジュネーブ）	大西会長
11 月 29 日（金）	平成 25 年度科学技術オリンピック推進委員会理事会	家副会長
11 月 29 日（金）	九州・沖縄地区会議主催学術講演会「地球市民としてのあなたへ～フクシマの復興に向けたアカデミアの挑戦～」（長崎大学）　※開会挨拶	小林副会長
11 月 30 日（土）	京都大学原子炉実験所 50 周年記念行事（関西空港会議場）	大西会長
12 月 2 日（月）	公開シンポジウム「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」　※閉会挨拶、パネリスト	大西会長、家副会長、春日副会長
12 月 7 日（土）	中国・四国地区会議学術講演会「大災害への備え―いのちと暮らしを守るために―」（かがわ国際会議場）　※講演	大西会長
12 月 9 日（月）	第 1 回 MICE 誘致促進委員会	大西会長
12 月 12 日（木）	公開シンポジウム「神宮の森・これまでとこれからの 100 年-鎮座百年記念・第二次明治神宮境内総合調査から」　※開会挨拶	大西会長
12 月 19 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
12 月 23 日（月）	天皇誕生日宴会の儀	小林副会長
12 月 26 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
1 月 6 日（月） ～　9 日（木）	Future Earth グローバル事務局最終提案書関係機構調整会合（フランス　パリ）	春日副会長
1 月 10 日（金）	講書始の儀	大西会長、小林副会長

1月13日（月） ～14日（火）	STSフォーラム評議員会（アメリカ ワシントンD.C.）	大西会長
1月23日（木）	シンポジウム「世界結晶年オープニングシンポジウム」（講堂）	大西会長
1月23日（木）	駐日EU代表部の New Year Reception （欧州連合代表部・EU大使公邸）	大西会長
1月23日（木）	ワイツマン科学研究所副所長、イスラエル・バルヨセフ教授を囲んでの夕食会及び意見交換会（イスラエル大使公邸）	春日副会長
1月27日（月）	これからの環境教育･研究に関する意見交換会（東北大学）　※講演	春日副会長
2月1日（土） ～4日（火）	第101回インド科学コングレス　INSAパエルディスカッション（インド　ジャンムー）	大西会長
2月4日（火） ～5日（水）	Future Earth in Asia Workshop （京都ロイヤルホテル＆スパ）	大西会長、春日副会長
2月7日（金）	第14回福島県「県民健康管理調査」検討委員会（福島県）	春日副会長
2月8日（土）	後藤・安田記念東京都市研究所　第37回『都市問題』公開講座講演（日本プレスセンター）	大西会長
2月10日（月）	公開シンポジウム「学士課程教育における政治学分野の参照基準」	小林副会長
2月12日（水）	英国大使館主催　「リスク・コミュニケーション」シンポジウム（英国大使館）	大西会長
2月13日（木）	日本ＩＢＭ「21世紀を考える会」講演（ホテルルポール麹町）	大西会長
2月13日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
2月14日（金）	総合科学技術会議有識者議員会合本会議	大西会長
2月15日（土）	学術フォーラム「福島第一原発事故にともなう放射線健康不安の精神的影響の実態と地域住民の支援」（福島県立医科大学大講堂）	春日副会長
2月17日（月）	第5回科学技術国際交流研究会（グランドアーク半蔵門）	春日副会長
2月20日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
2月22日（土）	平成25年度日本医師会総合政策研究機構･日本学術会議共催シンポジウム「福島原発災害後の国民の健康支援のあり方について」（日本医師会大講堂）	大西会長、春日副会長
2月23日（日） ～26日（水）	フューチャー・アース会議（カナダ　モントリオール）	春日副会長
2月27日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
3月2日（日）	福島県「県民健康管理調査」検討委員会、第2回	春日副会長

	「甲状腺検査評価部会」（福島県）	
3 月 3 日（月）	文部科学省第 46 回総会　科学技術・学術審議会（霞が関ビル）	大西会長
3 月 6 日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
3 月 11 日（火）	日本建築学会「東日本大震災３周年シンポジウム」ご講演（建築会館）	大西会長
3 月 12 日（水）	第８０回生命倫理専門調査会(4 号館)	大西会長
3 月 12 日（水）	総合科学技術会議有識者議員会合本会議	大西会長
3 月 13 日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
3 月 13 日（木）	北海道地区会議学術講演会「宇宙技術による“夢”の実現」（北海道大学）　※開会挨拶	家副会長
3 月 20 日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
3 月 27 日（木）	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
3 月 31 日（月）～4 月 4 日（金）	日・イスラエル二国間会議（イスラエル エルサレム）	家副会長
4 月 2 日（水）～6 日（日）	ICSU　CSPR（フランス パリ）	春日副会長

第２　表敬訪問

月　　日	会　議　名（開催地）	対応者
10 月 10 日(木)	イスラエル人文科学アカデミー会長　会長表敬訪問、二国間科学技術協力覚書署名式	大西会長、春日副会長
10 月 15 日(火)	SCAR 南極研究科学委員会会長・IASC 国際北極科学委員会会長　会長表敬訪問	大西会長、春日副会長

第３　会長談話

次の会長談話を公表した。

１　「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針の策定について」

（平成２６年３月６日公表）

２　「STAP 細胞をめぐる調査・検証の在り方について」

（平成２６年３月１９日公表）

第４　提言等の承認

○提言

１　基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会

提言「研究用原子炉のあり方について」

（平成２５年１０月１６日公表）

２　臨床医学委員会 臨床研究分科会

提言「臨床研究にかかる利益相反(COI) マネージメントの意義と透明性確保について」

（平成２５年１２月２０日公表）

３　科学研究における健全性の向上に関する検討委員会

提言「研究活動における不正の防止策と事後措置―科学の健全性向上のために―」

（平成２５年１２月２６日公表）

４　薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会

提言「薬剤師の職能将来像と社会貢献」

（平成２６年１月２０日公表）

５　基礎医学委員会 病原体研究に関するデュアルユース問題分科会

提言「病原体研究に関するデュアルユース問題」

（平成２６年１月２３日公表）

６　科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会

提言「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2014)」

（平成２６年３月１２日公表）

７　基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会

提言「我が国のバイオセーフティレベル４（BSL-4）施設の必要性について」

（平成２６年３月２０日公表）

８　科学研究における健全性の向上に関する検討委員会　臨床試験制度検討分科会

提言「我が国の研究者主導臨床試験に係る問題点と今後の対応策」

（平成２６年３月２７日公表）

９　臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会

提言「緊急被ばく医療に対応できるアイソトープ内用療法拠点の整備」

（平成２６年３月３１日公表）

○報告

１　基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：生物学分野」

（平成２５年１０月９日公表）

２　総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会
報告「科学者から社会への情報発信のあり方について」

（平成２６年１月３１日公表）

３　土木工学・建築学委員会 土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会
報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：土木工学・建築学分野 」

（平成２６年３月１９日公表）

第５　日本学術会議主催学術フォーラム

１　日本学術会議主催学術フォーラム「地殻災害の軽減と学術・教育」を平成２５年１１月１６日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。

２　日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」を平成２５年１１月２９日（金）に日本学術会議講堂にて開催した。

３　日本学術会議主催学術フォーラム「多文化共生社会の現在と在日外国籍女性」を平成２５年１２月８日（日）に日本学術会議講堂にて開催した。

４　日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と地球環境の将来－人文・社会科学からのメッセージ－」を平成２６年１月１１日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。

５　日本学術会議主催学術フォーラム「福島第一原発事故にともなう放射線健康不安の精神的影響の実態および地域住民の支援方策」を平成２６年２月１５日（土）に福島県立医科大学大講堂にて開催した。

６　日本学術会議主催学術フォーラム「世界のオープンアクセス政策と日本：研究と学術コミュニケーションへの影響」を平成２６年３月１３日（木）に日本学術会議講堂にて開催した。

第６　国際会議の開催

１　「第３４回国際眼科学会」を平成２６年４月２日（水）～４月６日（日）に東京都にて開催した。

第７　日本学術会議地区会議

１　日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「かごしまの『水』を考える－鹿児島大

学水研究最前線－」を平成２５年１１月１８日（月）に鹿児島県にて開催した。

２　日本学術会議中部地区会議学術講演会「大学からの知の発信～文理融合の視点から～」を平成２５年１１月２０日（水）に愛知県にて開催した。

３　日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「地球市民としてのあなたへ～フクシマの復興に向けたアカデミアの挑戦～」を平成２５年１１月２９日（金）に長崎県にて開催した。

４　日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会「大災害への備え―いのちと暮らしを守るために―」を平成２５年１２月７日（土）に香川県にて開催した。

５　日本学術会議近畿地区会議学術講演会「環境といのち―知恵なすわざの再生へ」を平成２５年１２月１５日（日）に京都府にて開催した。

６　日本学術会議北海道地区会議学術講演会「宇宙技術による”夢”の実現」を平成２６年３月１３日（木）に北海道にて開催した。

第８　慶弔等

１　慶事

平成２５年文化勲章受章者　１１月３日公表

岩崎　俊一（元会員(第 15-17 期)）

中西　　進（元会員(第 17-19 期)）

本庶　　佑（元会員(第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期)）

平成２５年文化功労者　１１月３日公表

榊　　佳之（元会員(第 20-21 期)）

廣川　信隆（元会員(第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期)）

松沢　哲郎（会員(第 20-22 期)）

柳田　敏雄（元会員(第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期)）

山岸　俊男（元会員(第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期)）

平成２５年秋の叙勲受章者　１１月３日公表

【瑞宝重光章】

金澤　一郎（元会員(第 19-21 期)（元会長)、連携会員(第 21-22 期)）

茅　　幸二（元会員(第 18-19 期)、元連携会員（20-21 期)）

木村　　孟（元会員(第 18-20 期)、元連携会員(第 20-21 期)）

中西　準子（元連携会員(第 20-21 期)）

【瑞宝中綬章】

潮木　守一（元会員(第 17-18 期)、元連携会員(第 20-21 期)）

岡本　　宏（元会員(第 20 期)、元連携会員(第 21-22 期)）

勝又　義直（元連携会員(第 20-21 期)）

厨川　道雄（元会員（第 18 期)）

斎藤　和雄（元会員(第 17 期)）

沢田　康次（元連携会員(第 20-21 期)）

堀田　凱樹（元連携会員(第 20-21 期)）

村井　眞二（連携会員(第 20-23 期)）

平成２５年秋の褒章受章者　１１月３日公表

【紫綬褒章】

今井　浩三（元会員(第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期)）

圓川　隆夫（連携会員(第 21-22 期)）

喜連川　優（元連携会員(第 21-22 期)、会員(第 22-23 期)）

城戸　淳二（連携会員(第 22-23 期)）

小長井　誠（元連携会員(第 21-22 期)、会員(第 22-23 期)）

日本国際賞　１月２９日公表

末松　安晴（元会員(第 17-19 期)、元連携会員(第 20 期)）

ロレアルユネスコ女性科学賞　３月３日発表

稲葉　カヨ（元連携会員（第20期)）

日本学士院賞　３月１２日発表

近藤　孝男（連携会員（第20-23期)）

岡本　佳男（元連携会員（第20-21期)）

森　　敏（連携会員（第20-23期)）

西澤　直子（元連携会員（第20期)、会員（第21-22期)）

山本　雅之（元連携会員（第20-21期)、会員（第22-23期)）

２　ご逝去

岡村　総吾（おかむら　そうご）　10月26日　享年95歳
元会員（第13-15期）　東京電機大学名誉学長、東京大学名誉教授

前田　庸（まえだ　ひとし）　11月1日　享年81歳
元会員（第16-17期）　学習院大学名誉教授

山口　定（やまぐち　やすし）　11月17日　享年79歳
元会員（第15-16期）　立命館大学名誉教授、大阪市立大学名誉教授

森脇　和郎（もりわき　かずお）　11月23日　享年83歳
元会員（第16-18期）元国立遺伝学研究所副所長、元理化学研究所筑波研究所長

東倉　洋一（とうくら　よういち）　12月5日　享年67歳
元連携会員（第20-21期）元国立情報学研究所副所長

中島　省吾（なかじま　せいご）　12月24日　享年91歳
元会員（第14,16-17期）　元フェリス女学院理事長、国際基督教大学名誉教授

尾関　雅則（おぜき　まさのり）　1月1日　享年89歳
元会員（第 15 期）　元国鉄常務理事、元鉄道総合技術研究所理事長

斎藤　孟（さいとう　たけし）　1月2日　享年90歳
元会員（第16期）　早稲田大学名誉教授

萩原　宏（はぎわら　ひろし）　1月8日　享年87歳
元会員（第16期）　京都大学名誉教授

大石　泰彦（おおいし　やすひこ）　1月16日　享年91歳
元会員（第13-15期）　東京大学名誉教授

小寺　彰（こてら　あきら）　2月10日　享年61歳

元連携会員（第20期）　東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授

藤本　彰三（ふじもと　あきみ）　2月16日　享年64歳
連携会員（第21-22期）　東京農業大学国際食料情報学部教授

岡村　周一（おかむら　しゅういち）　3月13日　享年65歳
元連携会員（第20期）　京都大学名誉教授

井口 洋夫（いのくち ひろお）　3月20日　享年87歳
元会員（第14-16期）　豊田理化学研究所長、東京大学名誉教授

鎌田　博（かまだ　ひろし）　3月24日　享年64歳
連携会員（第20-22期）　筑波大学大学院生命環境科学研究科教授

第９　その他

事務局人事異動

管理課長　旧：長谷川　和好
（平成２６年４月１日付）
新：檀原　均
（平成２６年４月１日付）

報	2
総　会	１６６

日本学術会議の
活動報告と方針
(第166回総会　会長報告）

2014年4月10日(木)

第22期　日本学術会議会長
大西隆

１　22期の方針とこの間の活動実績

□科学者の意見集約機能強化

- □緊急時における意見集約について

「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」(幹事会決定）
緊急事態の宣言。幹事会＋関連委員会代表＋専門分野の会員・連携会員からなる「緊急事態対策委員会を設置。
見解表明、政府、社会、学協会、海外機関との連携。

□アカデミーの国際連携への貢献

- □IAP理事会に初めて参加（2013年10月キャンベラ）。
- □WSFの企画担当。基調報告（科学技術イノベーション政策と科学アカデミーの社会的責任）(2013年11月リオ）。
- □FEで国際事務局誘致に関するビッドに、NW型提案で参加。
- □ISSC、AASSAに新規加盟（新規加盟は10年ぶり）。

□国民との連携及び内外に向けた情報発信力

- □健全性、緊急事態、大型研究等で、数度にわたり、記者懇談会、記者発表を行った。

２－１
2013年10月－2014年3月の活動方針
実質的な審議のまとめと会員・連携会員選考

- 「科学者の意見集約」、「科学アカデミーの国際連携」、「国民との連携・情報発信力強化」は引き続き期間方針として堅持。
- 2014年3月まで、以下を重点として活動する。
  - ① 東日本大震災復興支援　汚染水問題への対処、福島の復興支援に注力し、支援継続。
  - ② 科学研究健全性　1月までに方針取りまとめ、具体化し実践。
  - ③ 科学技術イノベーション推進　国民、産業界等との連携強化。大型研究計画取りまとめ。
  - ④ 科学技術の観点から助言、提言するべき社会問題に的確に対応。
  - ⑤ 国際交流　STSフォーラム、IAP理事会、WSF、ICSU、G-Science。さらにFE研究推進、国際社会の2015年問題に主導的に対応。
  - ⑥ コ・オプテーションによる23期会員選考　的確な推薦、学協会からの情報提供を受ける。
  - ⑦ 予算の的確な執行管理　来年度予算の適切な確保。

3

２－２　2013年10月－2014年3月の実績
① 東日本大震災復興支援の一層の促進

- 東日本大震災復興支援委員会、及び7つの分科会が、それぞれの提言取りまとめに受けて審議継続してきた。
- 福島復興に関し、多様なイベントを開催した。

「東日本大震災に係る食料の安全・安心を担保する生産・流通システム」(13年11月18日）

「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」（13年11月29日）

「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」（13年12月2日）

「大災害への備え―いのちと暮らしを守るために」(13年12月7日）

「地域の再生と国のかたち―東日本大震災の教訓を生かす」（14年1月12日）

「福島原発事故による放射能汚染と森林・木材　Part２」（14年1月24日）

「福島第一原発事故にともなう放射線健康不安と精神的影響の実態および地域住民への支援方策」(14年2月15日）

「福島原発災害後の国民の健康支援のあり方について」―日本医師会総合研究機構の共同主催(14年2月22日）

「安全な原子力であることの要件―原子力事故の教訓」（14年3月5日）

4

２－２　2013年10月－2014年3月の実績
② 科学研究の健全性

- 提言「研究活動における不正の防止策と事後措置ー科学の健全性の向上のために」(13年12月26日）科学研究における健全性の向上に関する検討委員会。
- 会長談話「STAP細胞をめぐる調査・検証の在り方について」（14年3月19日）。
- 提言「我が国の研究者主導臨床試験に係る問題点と今後の対応策」(14年3月27日）臨床試験制度検討分科会。
  - 提言「臨床研究にかかる利益相反（COI）マネージメントの意義と透明性確保について」（13年12月20日）
- 会長談話「科学研究における不正行為の防止と利益相反への適切な対処について」（13年7月23日）に対応。
  - 科学者の行動規範・適切な研究実施に関する研修プログラム
  - 不正防止に関わる第3者機関の設立
  - 臨床研究管理センター(研究機関ごと）・臨床試験推進部門(国)の設置
- 文科省・厚労省、さらにJSPS、JSTなど関係機関とも連携強化。

２－２　2013年10月－2014年3月の実績
③ 科学技術イノベーションの推進

- 提言「第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（MP 2014)」（14年3月12日）とりまとめ。
  - 207の学術大型研究計画、27の重点大型研究計画
  - 各方面に紹介
- 大学教育の分野別質保証委員会・各分野分科会。
  - 生物学、土木工学・建築学で報告とりまとめ
- 総合科学技術会議議員として
  - 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP)
  - 革新的研究開発支援プログラム（ImPACT)

の具体化。それぞれ動き出した。

２－２　2013年10月－2014年3月の実績
④ 科学技術の観点からの助言活動

- OECD（GRIPS), Workshop on Scientific Advice for Policymaking and Consequences for the Role and Responsibility of Scientists, **“Scientific Advisory Activities of Science Council of Japan”　Onishi**, October 22nd, 2013。
- JST/CRDS10周年記念シンポジウム「科学技術イノベーション戦略と日本学術会議」（13年12月3日）。
- 科学研究の健全性 文部科学省におけるガイドライン作成と連携。
- 総合科学技術会議　SIP、ImPACT　等の組成に協力。
- 国連科学諮問委員会ボードメンバー　黒田玲子会員選出（13年10月国内記者発表）。
- 内閣府設置法改正では、「科学顧問」設置には至らず。

7

２－２　2013年10月－2014年3月の実績
⑤ 科学技術分野の国際交流の推進

- **STSフォーラム（13年10月6-8日、京都）、アカデミー会長会議主催。**
  - STSフォーラム　Council　Meeting開催（14年1月ワシントンD.C.）
- **SCJ、IAC、IAP、ICSU、UNU共催　国際会議　持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2013 「巨大複合災害（地震・津波・原子力発電所事故）－影響波及と対策、及び将来に向けての政策選択」（13年10月9・10日）。**
- **WSF(13年11月24-27日）　基調報告 “New Science, Technology and Innovation Policies and Scientists’ Social Responsibilities”。SCJとして防災・減災のセッション主催。**
- **第101回インド科学会議（14年2月3-7日）　ジャンムー(インド）。科学技術イノベーションに関する報告。**
- **Future Earth研究プログラムの推進。**
  - 国際事務局への共同立候補（瑞、加、仏、米と）
- **若手アカデミー　「若手科学者アジア会議」（14年2月13-14日）　今年10月からの「若手アカデミー」発足、国際活動活発化。**

8

２－２　2013年10月－2014年3月の実績

⑥ コ・オプテーションによる会員・連携会員選考　本格化

- 会員・連携会員による推薦、協力学術研究団体からの情報提供終了。各選考分科会活動開始。
  - 被推薦者　1,311名　被情報提供者　1,090名
  - 女性、（東京・関西外の）地域、境界領域・新領域、産業界・実務家、若手の会員・連携会員、を拡充。
- 会長メッセージ「学術会議を担う新たな会員・連携会員の推薦について」(14年1月8日）
  - 多様な属性を持つ会員・連携会員候補を推薦。
  - 学術会議の活動を盛り上げていくような方を推薦。

２－２　2013年10月－2014年3月の実績

⑦ 平成26年度予算微増

平成25年度の推移

- 「暫定辞退」のご協力によって、手当不足を補う。
- 旅費は充足の見込み（会議開催の工夫、ビデオ会議の活用）

平成２６年度予算

- 平成26年度は、選考年でもあり、予算総額微増。

  平成25年度予算に対して11.1%増(約1億円増）
- 今後、総額は増えないものとして、活動目的に沿った効果的な概算要求、予算執行をはかる。
  - 調査分析活動の強化。
  - 科学研究の健全性への取り組み強化。
  - Future　Earth　への積極的な取り組み。
  - 若手のアカデミーの活動強化。
  - 近隣諸国との二国間交流強化。

３　2014年4月－9月期の活動方針（1）

「科学者の意見集約」、「科学アカデミーの国際連携」、「国民との連携・情報発信力強化」は引き続き期間方針として堅持。

１　委員会提言等の取りまとめ

臨時幹事会等を設定して、査読、審議を十分に行い、日本学術会議に相応しい提言等の発出。

東日本大震災復興支援委員会では、さらに原発事故被災者の健康管理等必要なテーマを取り上げ、審議体制を確立。

２　科学研究の健全性

研修プログラムの作成、研修システムの構築。

健全性向上の第3者機関整備（研究助成機関、産業界、研究機関、メディア、一般社会代表等と協議）。

３　緊急事態対応

関連学協会、政府機関等と平時から意見交換。

緊急時データベース構築などの具体化。

３　2014年4月－9月期の活動方針（2）

４　助言活動・科学技術イノベーション推進

CSTP等と協力して、政府・社会への助言活動の活発化。

大型研究計画などを踏まえて、科学技術イノベーションを推進。

５　国際交流・国連世界防災会議

ICSU総会(14年9月）、国際アカデミーとの交流。

国連世界防災会議（15年3月）等に積極的に参加。

近隣諸国を含めて二国間交流の強化。

６　Future　Earthの取り組み

国際事務局へのNW型提案、実現への体制作り。

FEの研究プログラムの推薦。

３　2014年4月－9月期の活動方針（３）

７　日本学術会議の組織的な強化

コ･オプテーションによる会員選考・申し送り事項などを整理し、来期へのスムースなバトンタッチ。

10年目の見直し一日本学術会議の将来像構築。必要な改革提案。

21期機能強化をもとにPDCAを行う。

学協会との連携を諸モデルケースを踏まえて強化。

８　日本学術会議の予算

限られた予算を新しい活動などに効果的に振り向け。

調査活動等を強化。

13

報	3
総　会	１６６

小 林 副 会 長 報 告

組織運営及び科学者間の連携に関する活動報告

（平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月）

副会長　小林 良彰

1.　科学者委員会の活動報告

科学者委員会では科学者間の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている 7 分科会をとりまとめている。科学者委員会は、平成 25 年 10 月以降、6 回の会議（うち 3 回はメール審議）を行った。

(1)　日本学術会議協力学術研究団体の指定

日本学術会議協力学術研究団体指定への新規申請に対する審査の手続きを迅速に行うために、従来の「科学者委員会委員長→科学者委員会→関係各部への審査付託→科学者委員会」を「科学者委員会委員長→関係各部への審査付託→科学者委員会」と改めた。

(2)　研究者の範囲

研究者の範囲を次の通りとして、非常勤職の方も含むようにした。

① 大学、高等専門学校、大学共同利用機関等において研究に従事する者

② 国立試験研究機関､特殊法人及び独立行政法人等において研究に従事する者

③ 地方公共団体の試験研究機関等において研究に従事する者

④ 公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人等において研究に従事する者

⑤ 民間企業において研究に従事する者

⑥ その他、高度専門性を有し、職務として研究に従事する者（①の非常勤に就く者を含む)、又は当該研究分野に関し、優れた業績を有する者

(3)　地区会議との連携（別添資料参照）

平成 25 年度下半期には、各地区会議運営協議会、学術講演会及び地域科学者との懇談会等を 6 件（鹿児島、名古屋、長崎、高松、京都、札幌）開催し、地区会議ニュースを発行した。なお、各地区の研究者との交流を深めるために、地区会議の学術講演会等には、可能な限り会長又は副会長が出席している。

また、今回の総会より総会時に開催される幹事会に各地区会議の代表幹事（または代理者）に陪席してもらい、各地区会議と幹事会との意見交換を行うようにした。

２．　科学者委員会の分科会活動報告（別添資料参照）

(1)広報分科会

平成 25 年度下半期に 5 回（うちメール審議 3 回）開催し、広報活動の状況を確認し、月刊誌『学術の動向』の編集について審議した。「「学術の動向」への国際的科学賞の受賞記事掲載」について、広報分科会において、国際的な科学賞の増加、日本人研究者の受賞例の増加に伴い、「学術の動向」に紹介欄を設けることとし、関連内規を作成した。

(2)男女共同参画分科会

平成 25 年度下半期に 2 回開催した。学術界における男女共同参画推進に関する調査のために、先進的事例として１４の学協会に対するヒアリングを実施した。また、大学アンケートについては、国立 61 校、公立 40 校、私立 342 校から回答を得ている。これらを踏まえて、報告書をとりまとめている。

(3)学術体制分科会

平成 25 年度下半期に 1 回開催し、今後の学術体制のあり方等について提言をとりまとめるべく準備を進めている。

(4)学協会の機能強化方策検討等分科会

平成 25 年度下半期に 1 回開催するとともに、平成 25 年 10 月 22 日にシンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」を開催した。

(5)学術の大型研究計画検討分科会

平成 25 年度下半期に 6 回開催し、マスタープランを策定した。

(6) 学術誌問題検討分科会

平成 25 年度下半期に 3 回開催するとともに、平成 26 年 3 月 13 日に日本学術会議講堂において、学術フォーラム「世界のオープンアクセス政策と日本：研究と学術コミュニケーションへの影響」を開催した。

(7) 知的財産検討分科会

平成 25 年度下半期は開催していない。

３．若手アカデミー委員会

幹事会附置の「若手アカデミー委員会」で若手の連携会員による自律的な活動を試行しつつ、平成 25 年度下半期には 4 回開催し、45 歳以下の若手の会員及び連携会員による第 23 期の「若手アカデミー」発足に向けて具体的な会則などの関連法規の改正を検討した。また、同委員会の学術の未来検討分科会は平成 25 年度下半期に 1 回開催し、「学術界・若手研究者への期待」に関するヒアリングを行った。さらに、若手研究者ネットワーク検討分科会は平成 25 年度下半期に 3 回開催するとともに、平成 26 年 3 月 7 日にシンポジウム『若手研究者ネットワーク活用に向けて～若手研究者をめぐる諸問題へのとりくみと学際融合による研究の創出～』を開催した。

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「かごしまの水を考えるー鹿児島大学『水』研究最前線ー」
（平成25年11月18日開催 鹿児島大学 稲盛会館 キミ＆ケサメモリアルホール）

日本学術会議中部地区会議学術講演会「大学からの知の発信～文理融合の視点から～」（平成25年11月20日開催　名古屋大学 野依記念物質科学研究館２階野依記念講演室）

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「地球市民としてのあなたへ～フクシマの復興に向けたアカデミアの挑戦～」
（平成25年11月29日開催　長崎大学医学部良順会館ボードインホール）

日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会「大災害への備えーいのちと暮らしを守るためにー」
（平成25年12月7日開催　かがわ国際会議場）

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議近畿地区会議学術講演会「環境といのち―知恵なすわざの再生へ」
（平成25年12月15日開催　京都大学芝蘭会館稲盛ホール）

日本学術会議北海道地区会議学術講演会「宇宙技術による”夢”の実現」
（平成26年3月13日開催　北海道大学学術交流会館講堂）

科学者委員会　広報分科会内規

第 22 期科学者委員会広報分科会平成 25 年 10 月 28 日決定
同科学者委員会　平成 25 年 12 月 17 日承認

『学術の動向』への国際的科学賞の受賞記事掲載について

近年の国際的な科学賞（学術賞・メダル等を含む）の増加、日本人研究者の受賞例の増加に伴い、日本学術会議および科学者コミュニティの情報誌である『学術の動向』に紹介欄を設ける件につき審議した結果、当面、以下のように取り扱うこととする。

（１）ノーベル賞、日本国際賞を受賞した場合は、先例に従い、今後も関連記事を掲載する。この場合、特集号とするか、紹介記事にとどめるかは、編集委員会が決定する。

（２）１を含め、紹介記事等を掲載する国際的な科学賞は、当面、政府機関である文部科学省科学技術・学術政策研究所（ＮＩＳＴＥＰ）が調査対象としてきたものを中心に、下記の賞とする。以後、対象の増減については下記４の手続きにより、科学者委員会広報分科会および科学者委員会が決定する。

① ノーベル賞（多部門）、② ラスカー賞(医学)、③ ガードナー賞（医学）、④ ウルフ賞（多部門）、⑤ フィールズ賞・ガウス賞（数学）、⑥ チューリング賞（情報工学・計算機科学）、⑦ 日本国際賞（多部門）、⑧ 京都賞（多部門） ⑨フランクリン賞（多部門）

（２）受賞の紹介記事の掲載を希望する日本学術会議会員もしくは連携会員（以下、申請者）は、推薦者 3 名（異分野の専攻者を含む日本学術会議会員もしくは連携会員に限る）の署名（記名・捺印または承諾メールの添付も含む、以下同様）を添えた推薦書を、日本学術会議事務局（企画課広報担当）宛に、簡単な理由、および、掲載希望時期を明記して、申請する。（掲載が決定された場合には、推薦者のうち１名が紹介文の執筆を担当することを予め申請者が推薦者に連絡しておくこととする。）

（３）申請を受けた同事務局は、同該の賞が内規で定める対象に含まれるか否かを確認し、含まれる場合には、科学者委員会広報分科会委員長が早期に同分科会（編集委員会）を招集して掲載の可否・条件等を決定する。さらに、この決定を、親委員会である科学者委員会の審議に付し、了承が得られた場合に、掲載を行う。

（４）当該の賞が、本内規の対象になっていない場合で、申請者が本内規の改訂（対象の追加）を希望するときは、理由および上記推薦者 3 名の署名等を添えて、日本学術会議事務局に内規改訂を申請する。以後の手続きは、上記２・３に準じる。

以上

別添３

公開シンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」について

目的：　新公益法人法に基づく新法人への移行受付期間が平成25年11月30日に終了することを踏まえ、本分科会が学協会に実施したアンケート調査結果に基づいて、学協会の新公益法人法への対応の現状を明らかにする。また、公益法人を選択することのメリットとデメリット、任意団体が法人格を持つことのメリットなど今後の対応方法についても議論する。

主催：日本学術会議科学者委員会「学協会の機能強化検討等分科会」
日時：平成25年10月22日（火）　13時から16時35分

プログラム：司会　前半　分科会幹事　福田裕穂、後半　分科会幹事　花木啓祐
13：00～13：10　開会挨拶
　　科学者委員会　委員長　小林　良彰
13：10～13：40　「学協会の法人化の現状」
　　公益法人協会　理事長　太田　達男
13：40～14：00　「学協会の機能強化検討等分科会が行ったアンケート調査の報告」
　　分科会　委員長　石原　宏
14：00～14：20　「公益社団法人を選択した中規模学会の現状」
　　公益社団法人　環境科学会　会長　細田　衛士
14：20～14：40　「一般社団法人を選択した小規模学会の現状」
　　一般社団法人　日本ミトコンドリア学会　理事長　太田　成男
14：40～14：55　休憩
14：55～15：15　「公益法人・一般法人制度と小規模学会」
　　法学委員会　副委員長　小幡　純子
15：15～15：30　「学会連合体による対応」
　　第一部　部長　佐藤　学
15：30～15：45　「移行期間終了後に想定される諸問題」
　　分科会　元副委員長　池田　駿介
15：45～16：05　「学協会法人化の今後の展望」
　　公益等認定委員会　委員　惠　小百合
16：05～16：35　質疑応答
16：35～16：40　閉会挨拶
　　分科会　副委員長　田中　耕司

日本学術会議主催学術フォーラム
「世界のオープンアクセス政策と日本：研究と学術コミュニケーションへの影響」

主催	日本学術会議
共催	文部科学省、（独）日本学術振興会（独）、科学技術振興機構、国立情報学研究所
日時	平成 26 年 3 月 13 日（木）13:00～17:30
場所	日本学術会議講堂

研究成果として論文を出版し、新しい知見や学識を世に残し、人類の知識として共有するという学問の有り様は、21 世紀に入って急速にその姿を変えつつある。

研究資金の使い方の中に、論文をオープンアクセス出版することを求め、またその成果として論文情報が産学官で自在に活用することができ、社会に還元しようとする国策が、例えば Horizon2020 に代表されるように欧米で活発に議論されている。

研究が学際化し、人と情報がグローバルなスケールで自在に動く今、日本にも欧米の政策の影響が現れ始めている。論文出版を、研究費を使ってオープンアクセス出版（無料で閲覧出来るように）することにとどまらず、誰でも論文著作権を履行できるようにする利活用の仕組み（クリエイティブコモンズ）も、日本に漂着している。

我が国では、日本学術会議の提言を受け、我が国発の国際的なリーディングジャーナル育成プロジェクトが協力に推進されている。上記の学問を取り巻く新たな環境が、研究現場、コミュニケーション場面、そしてジャーナル育成プロジェクトに及ぼす影響と対策を多面的に科学者が議論する場として本シンポジウムを開催する。

司会：北里洋（海洋研究開発機構　海洋・極限環境生物圏領域）　（敬称略）

13:00-13:15	趣旨説明	浅島誠（日本学術会議・学術問題検討分科会委員長）
13:15-13:40	挨拶	大西　隆（日本学術会議会長） 小松親次郎（文部科学省研究振興局長）
13:40-14:50	オープンアクセス影響下にある新たな学術誌刊行支援	安西祐一郎（日本学術振興会理事長）
	日本の学術政策とオープンアクセス政策を活かした将来観	中村道治（科学技術振興機構理事長）
	ドイツ・欧州の学術政策とオープンアクセス化による影響	Dr. Ralf Schimmer（Max Planck Digital Library デイレクター）
15:00-17:30	パネルデイスカッション	
	①各界からの主張	
	新しい局面を迎えたオープンアクセス政策：なぜ今議論が必要か	林　和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所）
	研究振興の将来を築く学術政策	下間康行（文科省研究振興局参事官・情報担当）
	研究者から見る日本の受信・発信の現状と、学術政策への期待	植田憲一（電気通信大学レーザー新世代研究センター）
	大学図書館における学術誌受信の課題と、オープンアクセス潮流による影響	江夏由樹（一橋大学附属図書館長）
	人文系に関するOA化	永井裕子（日本動物学会事務局長・UniBio Press 代表）
	学会からみる国際学術誌発信の実情と、今こそ必要な学術政策への提案	玉尾皓平（日本化学会会長・理化学研究所研究顧問）
	日本の学術情報流通への 3 つの提言	谷藤幹子（物質・材料研究機構科学情報室室長）
	②討論	大西隆、中村道治、安西祐一郎、下間康行、植田憲一、玉尾皓平、江夏由樹、Dr. Ralf Schimmer、谷藤幹子、永井裕子、林和弘
	③会場との意見交換	

平成 25 年度　日本学術会議公開シンポジウム
『若手研究者ネットワーク活用に向けて
～若手研究者をめぐる諸問題へのとりくみと学際融合による研究の創出～』

主催　日本学術会議 若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分科会

日時　平成 26 年 3 月 7 日（金）13:00-15:20
会場　日本学術会議 6-C(1)(2)(3)会議室

プログラム

開会挨拶
駒井 章治 若手アカデミー委員会委員長・奈良先端科学技術大学院大学 准教授

講演
「報告：若手ネットワークの継続的運用と拡充に向けて」
蒲池 みゆき 若手研究者ネットワーク検討分科会委員長・工学院大学情報学部准教授

「学術会議の若手問題への取り組み」
大西 隆 日本学術会議 会長・東京大学名誉教授・慶應義塾大学特別招聘教授

「我が国の科学技術人材政策と若手研究者の育成」
松尾 泰樹 文部科学省 人材政策課長

総合討論　（蒲池委員長、大西会長、松尾課長と共にディスカッション）

閉会挨拶
蒲池 みゆき

総合司会
井藤　彰 若手研究者ネットワーク検討分科会幹事　九州大学准教授

日本学術会議における
組織運営及び科学者間の連携

「組織運営及び科学者間の連携」担当副会長
小林良彰

科学者委員会の活動
（平成25年10月～26年3月）

【日本学術会議協力学術研究団体の指定】
　審査手続きの迅速化

【研究者の範囲】
　大学等で研究に従事する非常勤職の方を含む

【地区会議との連携】
　各地区会議代表幹事が総会時の幹事会に
　陪席して意見交換

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「かごしまの水を考える－鹿児島大学『水』研究最前線－」
（平成25年11月18日開催 鹿児島大学 稲盛会館 キミ＆ケサメモリアルホール）

日本学術会議中部地区会議学術講演会「大学からの知の発信～文理融合の視点から～」（平成25年11月20日開催　名古屋大学 野依記念物質科学研究館２階野依記念講演室）

1

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「地球市民としてのあなたへ～フクシマの復興に向けたアカデミアの挑戦～」
（平成25年11月29日開催　長崎大学医学部良順会館ボードインホール）

日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会「大災害への備え－いのちと暮らしを守るために－」
（平成25年12月7日開催　かがわ国際会議場）

2

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議近畿地区会議学術講演会「環境といのち―知恵なすわざの再生へ」
（平成25年12月15日開催　京都大学芝蘭会館稲盛ホール）

日本学術会議北海道地区会議学術講演会「宇宙技術による”夢”の実現」
（平成26年3月13日開催　北海道大学学術交流会館講堂）

3

広報分科会

月刊誌『学術の動向』の編集について審議。

「「学術の動向」への国際的科学賞の受賞記事掲載」について、広報分科会において、国際的な科学賞の増加、日本人研究者の受賞例の増加に伴い、「学術の動向」に紹介欄を設けることとし、関連内規を作成した。

男女共同参画分科会

学術界における男女共同参画推進に関する調査のために、先進的事例として14の学協会に対するヒアリングを実施した。また、大学アンケートについては、国立 61 校、公立40 校、私立342校から回答を得ている。これらを踏まえて、報告書をとりまとめている。

学術体制分科会

基礎研究や基礎的経費の重要性について検討し、提言を取りまとめている。

学協会の機能強化方策検討等分科会

公益法人法への移行状況のアンケート調査結果の分析に基づき、平成25年10月22日にシンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」を開催した。

学術の大型研究計画検討分科会

マスタープランを策定した。

学術誌問題検討分科会

学協会に対して行ったアンケート調査の結果を分析して、平成26年3月13日に日本学術会議講堂において、学術フォーラム「世界のオープンアクセス政策と日本：研究と学術コミュニケーションへの影響」を開催した。

【若手アカデミー】

第23期「若手アカデミー」発足に向けて関連法規の改正を検討

「学術の未来検討分科会」：学術界・若手研究者への期待」に関するヒアリング

「若手研究者ネットワーク検討分科会」：平成26年3月7日にシンポジウム『若手研究者ネットワーク活用に向けて』開催

報	4
総　会	１６６

H26年4月総会

副会長報告
科学と社会委員会および課題別委員会の活動状況に関する報告

（平成２５年１０月～平成２６年３月の活動）

家 泰弘

報告内容
・この半年間の、学術会議からの意志の表出
・アウトリーチ活動
・国際関連の活動（の一部）

政府からの審議依頼への回答

文部科学省研究振興局長からの審議依頼
「国際リニアコライダー計画に関する審議について」
（平成25年5月27日付）

⇩

課題別委員会「国際リニアコライダー計画に関する検討委員会」を設置（平成25年5月31日）

⇩

回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」をとりまとめ、研究振興局長に手交するとともに、回答として表出（平成25年9月30日）

⇩

回答の「要旨」の英訳を公表

提言の表出（1）

- **提言「研究用原子炉のあり方について 」**（平成25年10月16日）基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 （柴田 徳思 委員長）

- **提言 「臨床研究にかかる利益相反（COI）マネージメントの意義と透明性確保について 」**（平成25年12月20日）臨床医学委員会 臨床研究分科会 （宮坂 信之 委員長）

- **提言「研究活動における不正の防止策と事後措置 －科学の健全性向上のために－ 」**（平成25年12月26日） 科学研究における健全性の向上に関する検討委員会 （大西 隆 委員長）

提言の表出（2）

- **提言 「薬剤師の職能将来像と社会貢献」**（平成26年１月20日）薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会 （平井 みどり 委員長）

- **提言 「病原体研究に関するデュアルユース問題」**（平成26年１月23日）基礎医学委員会 病原体研究に関するデュアルユース問題分科会 （岡本 尚 委員長）

- **提言「我が国のバイオセーフティレベル 4（BSL-4） 施設の必要性について」**（平成26年３月20日）基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会 （笹川 千尋 委員長）

提言の表出（3）

- **提言「我が国の研究者主導臨床試験に係る 問題点と今後の対応策」**（平成26年３月27日）科学研究における健全性の向上に関する検討委員会 臨床試験制度検討分科会 （山本正幸委員長）

- **提言「緊急被ばく医療に対応できるアイソトープ内用療法拠点の整備」**（平成26年３月31日）臨 床 医 学 委 員 会 放射線・臨床検査分科会 （遠藤 啓吾委員長）

報告

- **報告「科学者から社会への情報発信のあり方について」**（平成26年１月31日） 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会（萩原一郎委員長）

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準

- 報告「大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 生物学分野」（平成25年10月９日）基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物学分野の参照基準検討分科会（鷲谷 いづみ委員長）

- 報告「大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野 」（平成26年３月19日）土木工学・建築学委員会 土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会（嘉門 雅史委員長）

課題別委員会の設置

審議すべき課題の公募を行い、4つの課題別委員会を新たに設置した。

- 科学者からの自律的な科学情報の発信の在り方検討委員会（高橋 桂子委員長）
- 我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会（五神 真委員長）
- 人口減少が社会の諸システムに及ぼす影響に関する長期展望委員会（西村　周三委員長）
- 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会（岡田 益男委員長）

【審議依頼対応型の課題別委員会】

- 高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会（今田 高俊委員長）
- 国際リニアコライダー計画に関する検討委員会（家 泰弘委員長）

ご協力お願い

これから第22期末に向けて、数多くの提言等の

とりまとめ ⇒ 査読 ⇒ 幹事会審議

が行われる。

アウトリーチ活動

【「知の航海」分科会】

- ＜知の航海＞シリーズの企画・執筆支援
  美馬のゆり著『リケジョという生き方』（平成25年12月20日出版）
  酒井　啓子著『中東から世界が見える』（平成26年3月20日出版）

【科学力増進分科会】

- サイエンスカフェ　　多数開催
- サイエンスアゴラ （平成25年11月9-10日 日本科学未来館等にて開催）に、
  「科学・技術でわかること、わからないこと　Part Ⅲ」
  「若者に発信する日本学術会議：〈知の航海〉シリーズから」
  「高校で学ぶべき〈サイエンス〉とは何か」
  などの企画で出展。
- 「高校理科教育検討小委員会」を設置

国際関連（1）

第13回 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 「巨大複合災害ー地震・津波・原子力発電所事故」

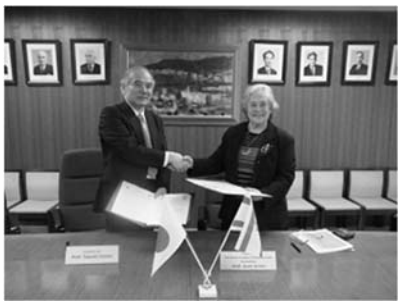
（H25.10.09-10）

IAC、IAP、ICSU、国連大学との共催

巨大複合災害からの教訓を将来に活かす道、科学・技術の役割、および社会的選択に関して討議

国際関連（2）

イスラエル科学人文アカデミーとの二国間交流協定



大西会長と Ruth Arnon会長
（H25.10.10）

二国間交流のプログラムの具体案の協議のため、羽場久美子会員、長谷川真理子連携会員、家、の3名がH26年4月1日にイスラエル科学人文アカデミー（イェルサレム）を訪問。

- 年1回程度のペースで、ワークショップを交互開催。
- 両国が関心を抱く学術的テーマと、それに関する専門家を同定することが肝要。
- 第1回については日本側から提案 ⇒ テーマを募集

報	5
総　会	１６６

国際活動報告[2013年10月～2014年4月]

国際担当副会長　春日　文子

１．国際委員会及び分科会等の開催

(1) 国際委員会

第 29 回（10/1）～第 36 回(4/10)（メール審議含む）

(2) 分科会等

① 国際会議主催等検討分科会

1/29、2/3、2/17、4/7（メール審議含む）

② アジア学術会議分科会

第 14 回（11/20)、第 15 回（2/4）

③ 日本・カナダ女性研究者交流分科会

第２回（10/4)、第３回（3/12）

④ 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2013 分科会

第 3 回（10/4）

⑤ 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2014 分科会

第 1 回（3/19)、第 2 回（3/31）

⑥ Ｇサイエンス及び ICSU 等分科会

第６回（12/9)、第 7 回（3/20）

２．加盟国際学術団体の見直しならびに新規加盟

法学国際協会（IALS）と国際オリエント・アジア研究連合（IUOAS）の２団体の脱退、国際社会科学評議会（ISSC）とアジア科学アカデミー・科学協会連合（AASSA）の２団体の新規加入について手続き中

３．持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

テーマ「巨大複合災害（地震・津波・原子力発電所事故）－影響波及と対策、及び将来に向けての政策選択」

2013 年 10 月 9、10 日、日本学術会議講堂にて開催

全体議長・組織委員会委員長：家　泰弘副会長

共催：国連大学、ICSU、IAP、IAC

４．共同主催国際会議

・第 34 回国際眼科学会（4/2～4/6、東京都千代田区）

皇太子殿下御臨席

・平成 27 年度共同主催国際会議候補の追加決定

・平成 28 年度共同主催国際会議ヒアリング審査および候補会議の決定

５．国際学術団体等への貢献

(1) 国際科学会議（International Council for Science: ICSU）

・ ICSU の基幹委員会（Committee on Scientific Planning and Review, Urban Health and Wellbeing, Regional Committee for Asia and the Pacific, Future Earth Science Committee, etc.）への参画

・ Future Earth in Asia（2 月 4～5 日、京都）、Future Earth 本部事務局誘致のための 5 ヶ国協議をはじめとする Future Earth への参画

(2) IAP (the global network of science academies)

・ 執行委員会：10 月 31 日―11 月 1 日　キャンベラ

(3) 世界科学フォーラム（World Science Forum: WSF)

・ WSF2013 'Science for Global Sustainable Development'（世界の持続可能な発展のための科学）（11 月 23 日―26 日、リオデジャネイロ）

・ ICSU、UNESCO とパラレルセッション'Science and Technology in the Service of Disaster Risk Reduction'（減災のための科学・技術の役割）を共同担当

(4) 各国アカデミーとの交流

・ イスラエルとの交流；2013 年 10 月 10 日、日本学術会議において、大西隆 日本学術会議会長とルース・アーノン イスラエル科学・人文アカデミー会長との間で、両アカデミー間における科学技術の協力の促進を図ることを目的とした覚書（MoU）を締結。2014 年 4 月 1 日～3 日、家泰弘日本学術会議副会長及び会員等２名をイスラエルに派遣し、MoU に基づく今後の交流活動についての打合せを実施。

・ カナダとの交流：3 月 6～14 日に、カナダより民族音楽が専門の研究者 Jessica Roda 博士（Lecturer at the Urban and Tourism Department, L'Université du Québec à Montréal (UQAM)）を受入れ。

・ ブルガリアとの交流：3 月 26 日～28 日、MoU に基づき日本学術会議の会員等６名をブルガリアに派遣し、"Seismic Hazard and Related Earthquake Phenomena"というテーマで二国間会議を開催。

(5) 国連への貢献ほか

・ 黒田玲子第三部会員の国連事務総長科学諮問委員会(Scientific Advisory Board)委員就任

・ 大西会長の国連国際防災戦略(UNISDR)顧問グループ(Scientific and Technical Advisory Group)メンバーとしての貢献（2015 年 3 月の第 3 回国

連防災世界会議への input - 国際科学者組織ならびに日本学術会議の活動との連携）

・ 大西会長の観光庁 MICE アンバサダー就任

＊MICE: meeting, incentive, convention, exhibition/event

6．国際会議等への代表の派遣

・ TWAS 第 24 回総会：10 月 1～3 日、ブエノスアイレス
・ 16th ICSU Regional Committee Meeting for Asia: 11 月 26～27 日、ソウル
・ STS フォーラム評議会：1 月 13～14 日、ワシントン DC
・ 第 42 回地質科学国際研究計画（IGCP）本部理事会・総会：2 月 17～19 日、パリ

他多数

7．その他

海外からの表敬訪問

・イスラエル科学・人文アカデミー会長：10 月 10 日
・北極・南極両科学委員会委員長：10 月 15 日
・駐日リトアニア大使：1 月 29 日

報	6
総　会	１６６

第 一 部 報 告

第一部活動報告（第１６６回総会）

佐藤　学（第一部部長）

１．組織の概要

第一部は、言語・文学委員会、哲学委員会、史学委員会、心理学・教育学委員会、社会学委員会、地域研究委員会、法学委員会、政治学委員会、経済学委員会及び経営学委員会の１０委員会のもとに８０近い分科会が活動している。

部会は年３回（夏季部会を含む）と隔月の拡大役員会によって運営し、第一部付設の４つの分科会、「福島原発災害後の科学と社会のあり方を考える分科会」「国際協力分科会」「人文・社会科学分野大型研究計画評価分科会」（１０月以降「人文・社会科学大型研究計画検討推進分科会を改組」）、および「人文・社会科学振興分科会」を組織し、それぞれの活動を推進してきた。なお、これらの活動の情報は「ニューズレター」（これまで４回発行）にて会員・連携会員で共有している。

２．第一部付置分科会の活動

「福島原発災害後の科学と社会のあり方を考える分科会」（これまで１１回開催）において「社会のための科学」としての反省、「社会のための科学」としての責任を担える制度のあり方と科学者の倫理について審議を重ね、現在、提言「科学と社会のより良い関係に向けて―福島原発災害後の信頼喪失を踏まえて―」（案）の最終まとめを審議中である。

「国際協力分科会」においては、AASSREC（アジア社会科学研究協議会連盟）と IFSSO（国際社会科学団体連盟）の２団体の国内委員会としての活動を展開し、ISSC（国際社会科学協議会）に加盟の準備活動を展開し、その成果が実り加盟が実現した。

第一部関連の大型研究計画としては、一昨年度小改訂を行って提出された「社会科学統合データベース・ソリューション網の形成」、「心の先端研究のための連携拠点」の 2 件に加え、「『地域の知』を理解し共有する実践的情報基盤の形成」、「日本語歴史的典籍のデータベースの構築計画」の計４件の申請がマスタープランとして採択されている。昨年度は１０分野別委員会の１１分野（心理学と教育学は別分野として扱う）および「人文社会科学融合」（７領域）において「日本の展望」にもとづく「学術研究領域」を定め、公募を通じて各領域に数件は申請が行われること促進して、第一部関連の大型研究計画として区分１と区分２合わせて２４件が応募し、うち計１９件を大型研究計画として決定され、そのうち２件が重点大型研究計画として承認された。

なお、本年度は会員・連携会員の改選時期にあたり、今回の改選において第一部では約３分の２の会員が入れ替わることもあって、適切かつ公正な会員・連携会員の選出が実施されるよう、部会、拡大役員会において準備を進めてきた。

３．第一部関連分科会のシンポジウム開催一覧（平成２５年 10 月―平成２６年３月）

第一部関連の分科会の活動状況は活発であり、以下のシンポジウム等を主催し開催した。（分科会名は省略）

現代日本におけるワークライフバランスを考える－関西からの発信－（経済学委員会）
モダニティの再規定―ポスト近代を超える時代認識－（社会学委員会）
裁判員裁判と量刑不当　（心理学・教育学委員会）
認知心理学における事実と虚構の打開　（心理学・教育学委員会）
ナショナリズムと歴史教育―東アジアを中心として　（史学委員会）
医療現場における心理学　（心理学・教育学委員会）
デジタル・メディア時代の政治と選挙－日本における民主主義の現在　（社会学委員会）
グローバル化時代における民主主義的統治とは　（社会学委員会）
裁判員制度をめぐる心理学的諸問題：何が課題か、どう対処するか　（心理学・教育学委員会）
日本学術会議主催学術フォーラム「地殻災害の軽減と学術・教育」（史学委員会）
負の連鎖を断ち切るには　（心理学・教育学委員会）
地域研究の「粋」を味わう――現地から中国、東南アジア、アフリカ、中東を読むの開催について　（地域研究委員会）
グローバル化社会における伝統知と古典教育の意義を探る　（哲学委員会）
―新たな統治機構改革―道州制をめぐって―　（政治学委員会）
大学で学ぶ経済学とは～学士課程教育における参照基準を考える　（経済学委員会）
3.11 後の「いのち」を語る言葉を考える　（哲学委員会）
日本学術会議主催学術フォーラム・多文化共生社会の現在と在日外国籍女性　（多文化共生・ジェンダー合同分科会）
東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして（史学委員会）
人口減少と日本社会－ライフコース・地域経済・社会保障の行方　（経済学委員会）
日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と地球環境の将来－人文・社会科学からのメッセージ－」　（第一部国際協力分科会）
大学学部教育における地理学参照基準について　（地域研究委員会）
地域の再生と国のかたち―東日本大震災の教訓を活かす―　（地域研究委員会）
高齢化社会の若者論―労働・福祉・コミュニティを考える―　（社会学委員会）
学士課程教育における政治学分野の参照基準　（政治学委員会）
学士課程教育における地域研究分野の参照基準　（地域研究委員会）

法の世界とジェンダー司法と立法を変えることはできるのか？　（法学委員会）
現代リスクマネジメントの諸相ソーシャル・リスクマネジメントとリスク・リテラシー
（経営学委員会）
大学における新たな歴史教育を求めて　（史学委員会）

４．学士課程の参照基準

平成２５年１０月以降、新たに教育学分野と哲学分野の分科会の設置が準備され、第一部の１０委員会１１領域において学士課程の参照基準の審議が完了、審議中、もしくは準備中である。

５．夏季部会の準備状況

昨年度の夏季部会は、旅費が逼迫している現状を考慮して東京で８月に開催し、部会の会議とは独立して、福島において公開シンポジウム（７月１３、１４日）を開催して、人文社会科学振興の課題とエネルギー政策、および東日本大震災復興支援に関する討議を行った。
本年度は、８月２、３日に金沢大学において「環日本海の文化交流」（仮案）をテーマとする公開シンポジウムを開催し、部会においては人文・社会科学振興の方策について集約的な議論を行う予定である。

報	7
総　会	１６６

第二部報告

山本　正幸（第二部部長）

第二部活動報告（平成 25 年 10 月～26 年 3 月）

１）提言の発出（6 件）
○「研究用原子炉のあり方について」（基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）平成 25 年 10 月 16 日
○「臨床研究にかかる利益相反(COI)マネージメントの意義と透明性確保について」（臨床医学委員会 臨床研究分科会）平成 25 年 12 月 20 日
○「薬剤師の職能将来像と社会貢献」（薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会）平成 26 年 1 月 20 日
○「病原体研究に関するデュアルユース問題」（基礎医学委員会 病原体研究に関するデュアルユース問題分科会）平成 26 年 1 月 23 日
○「我が国のバイオセーフティレベル 4(BSL-4)施設の必要性について」（基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会）平成 26 年 3 月 20 日
○「緊急被ばくに対応できるアイソトープ内用療法拠点の整備」（臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会）平成 26 年 3 月 31 日

２）報告の発出（1 件）
○「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 : 生物学分野」（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物学分野の参照基準検討分科会）平成 25 年 10 月 9 日

３）公開講演会・シンポジウム
26 件の公開講演会・シンポジウムを開催・共催した。

４）共同利用研究所等の外部委員推薦依頼への対応
大阪大学蛋白質研究所運営協議会委員の推薦を行った。

５）今後の主な予定
〇平成２６年度の第二部夏季部会を８月４日−５日に名古屋で開催する。それにあわせて公開講演会の開催を予定。
〇今会期中の発出を予定する提言・報告のとりまとめを加速させる。来期への継続審議が望ましいものについては記録を残すなど適宜対応を行う。

以上

報	8
総　会	１６６

第 三 部 報 告

第三部の活動

平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月の半年間における、第三部および関連の分野別委員会の活動を以下に報告する。この間、第三部役員会を１回（10/25)、第三部拡大役員会を５回（11/22、12/17、1/31、2/28、3/20）開催した。

１．提言等の発出

○提言「研究用原子炉のあり方について」基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会(H25.10.16)

○報告「科学者から社会への情報発信のあり方について」総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会(H26.2.4)

○報告「―大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：土木工学・建築学分野」土木工学・建築学委員会土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会(H26.3.19)

２．シンポジウムの開催

○情報学委員会：「ユビキタス状況認識と時空間データの新展開」(H25.10.4)（東京大学本郷キャンパス)

○情報学委員会+JST：「情報学による未来社会のデザイン～健全でスマートな社会システムに向けて～第二回情報学が拓くヘルス＆ウェルネス」(H25.10.15)（一橋大学一橋講堂)

○地球惑星科学委員会：「2nd G-EVER International Symposium and the 1st IUGS & SCJ International Workshop on Natural Hazards」（H25.10.19-20）（情報・産業プラザ（宮城県仙台市））

○環境学委員会：「みどりからのメッセージ自然共生社会をめざそう～共生の科学・生物多様性・レジリアンス・文化を考える～」(H25.10.21)（日本学術会議講堂)

○材料工学委員会：「材料の創製と高機能化を極める」(H25.11.1)（日本学術会議講堂)

○地球惑星科学委員会：サイエンスアゴラ 2013「地球に生きる素養って何？～対話で考える、私と地球のつき合い方～」(H25.11.9-10)（産業技術総合研究所臨界副都心センター別館（お台場））

○総合工学委員会:「科学者が語るエネルギーの光と影」(H25.11.19)(日本学術会議講堂)
○電気電子工学委員会:「イノベーティブな社会の実現に向けた電気電子工学のグローバル人材」(H25.11.20)(日本学術会議講堂)
○材料工学委員会+関連 34 学協会:「第５７回日本学術会議材料工学連合講演会」(H25.11.25-26)(京都テルサ)
○情報学委員会:「ICT を生かした社会デザインと人材育成（実践編)」(H25.11.27)（日本学術会議講堂)
○土木工学・建築学委員会:「未来を担う低炭素コミュニティの構築」(H25.11.28)(日本学術会議講堂)
○土木工学・建築学委員会:「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」(H25.12.2)(日本学術会議講堂)
○総合工学委員会＋機械工学委員会:「第３回計算力学シンポジウム」(H25.12.3)（日本学術会議講堂)
○地球惑星科学委員会:「増大する災害と地球環境問題に地球人間圏科学はどう取り組むか？」(H25.12.5)(日本学術会議講堂)
○環境学委員会:「明治神宮の森・これまでとこれからの 100 年-鎮座百年記念・第二次明治神宮境内総合調査から-」(H25.12.12)(日本学術会議講堂)
○化学委員会:「世界結晶年オープニングシンポジウム」(H26.1.23)（日本学術会議講堂)
○土木工学・建築学委員会+機械工学委員会:「第５回科学技術人材育成シンポジウム」(H26.2.8)（日本学術会議講堂)
○情報学委員会:「MOOC の拡大:教育の変容を促す大きな流れ」(H26.2.26)（日本学術会議講堂)
○総合工学委員会:「安全な原子力であることの要件 - 福島原子力事故の教訓 - 」(H26.3.5)（日本学術会議講堂)
○総合工学委員会＋電気電子工学委員会:「先端計測 2014」(H26.3.11)（日本学術会議講堂)
○機械工学委員会＋土木工学・建築学員会:「第１回理論応用力学シンポジウム」(H26.3.17)（日本学術会議講堂)
○総合工学委員会:「産学連携の新パラダイム - 日本のモノ作り再生に向けて - 」(H26.3.19)（青山学院大学相模原キャンパス)
○数理科学委員会:「数理モデリング（数学と諸科学・産業との連携の観点から)」(H26.3.26)(日本学術会議講堂)

３．マスタープラン 2014 の策定への協力

3 月 12 日に公表された提言「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2014）では、学術大型研究計画 207 件と、さらにその中から諸観点から特に速やかに実施すべき重点大型研究計画 27 件が、それぞれ策定されたが、学術大型研究計画の 65%および重点大型研究計画の 67%は第三部の計画である。このことは、大型研究計画における第三部関連分野の役割の重要性を示すものである。今後、5 月 30 日に公開シンポジウムを開催するとともに、英語版も公表する予定である。

４．夢ロードマップと学協会との連携

理学・工学分野における科学・夢ロードマップ（夢ロードマップ）は、理学・工学分野全体の将来の夢を語ることを目的に、2011 年に初版は公表された。今回、その改訂として 2014 年版の作成を進めている。本夢ロードマップは、第三部拡大役員会が主体となってその作成を進め、実際の検討および作成は、ワーキンググループが理学・工学系学協会連絡会の 56 学協会の協力を得て進めてきている。本ロードマップ改訂の中心は、東日本大震災によって明確となった課題の取り込み、内容の充実、そして多くの国民理解を得るための見やすさにある。各分野のロードマップを示すと共に、全体ロードマップでは研究成果が社会に貢献する姿を含めて示す。理学・工学分野の研究者のみならず、多くの研究者、政策立案者、国民にも広く活用されることを目指している。

5 月中旬に「報告」として第三部から提出、7/12（土）に公開シンポジウム開催を予定している。また、5-6 月に開催予定の理学・工学系学協会連絡協議会で報告・意見交換を行う。

５．参照基準について

大学教育の質保証のための参照基準の策定については、各分野別委員会が行ってきた。これまで、機械工学及び数理科学の参照基準は公表済みである。

６．共同利用研究所等の外部委員推薦依頼への対応

〇京都大学原子炉実験所運営委員会委員の推薦 ⇒ 総合工学委員会に推薦依頼。

〇東京大学物性研究所協議会委員の推薦 ⇒物理学委員会、化学委員会に推薦依頼。

７．今後の主な予定

平成 26 年度の第三部夏季部会は 8 月 4 日-5 日に北海道で開催する。市民講演会の講師として鈴木章先生、和田恵治先生、石川幹子先生を予定している。

文責　第三部部長　荒川　泰彦